

(社)日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第92回 レベル1PRA分科会 議事録

1. 日時 第92回：2019年3月13日(水) 13:30～16:00

2. 場所 電力中央研究所大手町地区 711会議室

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 友澤(桐本副主査代理), 橋本幹事, 石田, 喜多, 岩谷, 小谷,
三浦(佐藤(輝)代理), 黒岩, 塩田(谷口代理), 小森(11名)
(常時参加者) 濱口, 藤崎, 根岸(3名)

(敬称略)

4. 配布資料

- P4SC-92-1 第91回L1PRA分科会議事録(案)
- P4SC-92-2 停止時PRA標準制定版本文等への気づき事項
- P4SC-92-3 L1PRA標準統合性能化案コメント対応一覧
- P4SC-92-4 内の事象L1PRA標準 統合性能化案
- P4SC-92-5-1 リスク専門部会から標準委員会への報告時資料について
- P4SC-92-5-2 標準策定に関する審議の流れの概要と留意事項

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員11名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。
また, 配布された資料が確認された。

(2) 第91回議事録の確認

資料P4SC-92-1を用いて第91回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いただくこととし, 特になければこのまま正式版とすることとなった。

(3) 改定停止時PRA標準の校正について

資料P4SC-92-2により, 制定されている改定停止時PRA標準の校正対応について報告があった。用語の使用などは, 今後の標準検討にも反映していくこととなった。なお, 「一つに」と「ふたつに」でかな・漢字の使い方が異なるため, 今後の校正作業で確認する。最終的な校正結果については, 専門部会確認・標準委員会報告になる。

(4) L1PRA 標準統合性能化 中間報告コメント対応について

資料 P4SC-92-3 及び P4SC-92-4 により、L1PRA 標準統合性能化案の中間報告におけるリスク専門部会・標準委員会からのコメントと対応について検討した。共通性の高い事項については、専門部会でも検討していくこととなり、それらの議論と合わせて分科会でも検討していくこととなった。主な議論は次のとおり。

・性能化の標準構成について

－現行の附属書の内容については、ガイドや技術レポートに展開することも考えられる。この場合には、標準本体と合わせて発行していくことがよい。ガイド化する場合の構成についても検討していくこととする。

－米国 ASME/ANS 標準でのカテゴリ分けなどを参考に、要求を分けた方がよいと考えられるところを検討していく。標準本体では幅を持たせた要求として、ガイド類でより具体化する構成も考えられる。

－PCT1200℃や使命時間 24 時間など具体的な数値等を規定している部分については、標準本体では性能要求に限定し、数値等はガイド類に記載していくことも考えられる。コンセンサスとして成立している背景もあるため、その点の考慮も必要となる。同様に、設計条件の使用を第一義としている現行規定箇所についても規定振りを検討していく。

・用語等について

－従前からの定義では不十分となる可能性のある「アンアベイラビリティ」「アンリライアビリティ」の個別定義を検討する。今後、米国 ASME/ANS との調整なども考えられる。

－「リスク情報」「システムの失敗確率」「系統のプロセス」「信頼性」などの用語を使用していく場合には、意味するところを明確にする。

－「技術要件」などの用語は基本的に「要件」とし、必要な場合には「技術的な」などの形容詞を付す用法とする。

・個別規定について

－箇条 13 の定量化の規定では、点推定と不確実さ解析の扱いを再整理する。米国 ASME/ANS 標準では、カテゴリ I では点推定ベース、カテゴリ II では不確実さ解析をベースとしている。

－箇条 13 の SOKC では、最近のコードにより評価は可能となってきたが、関連の対象検討をどう扱うかなどの課題もあり、定量化の規定の再整理とも相俟って規定振りを検討していく。

(5) スケジュール、その他

リスク専門部会で標準策定審議や標準委員会への報告のあり方を整理しており、資料 P4SC-92-5-1 及び P4SC-92-5-2 により紹介があった。

次回分科会は 4 月 18 日 PM の予定とし、次々回は次回の状況により調整となった。

以上